

「古田小学校の古田棒踊・古田獅子舞伝承活動の取組」

1. 学校名	西之表市立古田小学校
2. 学年・人数	古田棒踊：小学校3～6年（計12人） 古田獅子舞：小学校3年男子（子猿：3人） 練習のみ2年男子（3人）
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 古田棒踊：令和7年9・10月（古田小学校・旧古田中学校体育館） 古田獅子舞：令和7年9・10月（古田中央公民館） (2) 発表の日時・場所 古田棒踊：令和7年9月21日（日）校区・古田小学校合同運動会 令和7年10月19日（日）願成就（古田豊受神社） 古田獅子舞：令和7年10月19日（日）願成就（古田豊受神社）
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 西之表市指定文化財 古田棒踊（ふるたぼうおどり） 1921（大正10）年に日置郡より安城に移住し、その後、古田に転住させられた上妻次郎氏が、当時の青年会長（上妻静馬氏）に伝えたことが始まり。その後、古田豊受神社の願成就で奉納されてきた。鎌2人、棒4人の6人1組で踊る。【入場→棒突き→本踊り（2回）→退場】の4部構成である。保存会の方の歌に合わせ、約150cmの棒と約70cmの鎌を打ち合う勇壮さ、前後左右に巧みに動くスピード感が特徴的である。 (2) 鹿児島県指定文化財 古田獅子舞（ふるたししまい） 大分県から椎茸栽培のため移住してきた川野幸太郎氏と石井又蔵氏が古田の若者に教え、1914（大正3）年に、大正天皇御即位記念として古田豊受神社に奉納して以来、願成就に奉納されてきた。獅子・子猿（各2人）、天狗・大太鼓・小太鼓（各1人）、笛（10人前後）で舞をする。子猿は小学2年生が、獅子・天狗・大太鼓・小太鼓は青壮年が担う。獅子と天狗が激しく闘い、「ホース」の掛け声を発して気合いを入れ、緊迫感に包まれる。子猿は、獅子・天狗の動作を真似て、時に猿同士で争い、舞の道化役を演じる。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	(1) 古田棒踊 校区・小学校合同運動会での披露に向け、棒踊り保存会の方々に指導を仰ぐ。また、運動会・願成就に、小学生・中学生・高校生が会し、保存会の方々の指導で踊りを合わせる。 (2) 古田獅子舞 願成就前の3週間、保存会の練習に参加し、子猿役の児童は指導を仰ぐ。棒踊りに初めて参加する3年生は、保存会の方々や上級生に教えてもらいながら練習をする。また、願成就では中学生・高校生や地域の大人と一緒に踊るため、自分たちも継承していく担い手としての意識を自然ともつ。3年生になれば棒踊りに参加できたり、獅子舞の子猿を担ったりするなどの、目標をもたせることができ、学級経営・学校経営にも反映している。
6. 取組の様子 （練習状況、発 表の場等）	 <p style="text-align: center;">願成就での棒踊りや獅子舞の子猿役</p>
7. 感想・意見  （参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等）	【3年生児童】 練習は大変だったけど、これまでたくさんの人がつなげてきたのはすごいことだと思った。ぼくたちも地域の方の仲間だと思った。 【教職員】 地域の方々と一緒に練習をする中で、子供たちは地域の方々が伝統行事を守り続けている思いを直接感じる事ができた。願成就には多くの参加者の前で披露することで、子供たちは成就感や所属感を味わうとともに、郷土への愛情を育む事ができた。 【保存会から】 子供も大人も少なくなる中、みんなが協力してくれることで継承することができる。留学生も参加して古田のよさを感じ、思い出にも残ると思う。また、地域の伝統芸能に子供のうちから関わることで、進学で島を出た子供も、帰郷してから携わってくれるのでありがたい。